



## 環境報告書2012

テーブルマーク株式会社

# ■ 環境報告書の基本的要件

- **報告対象範囲** 主にテーブルマークの製造部門である自社8工場の環境負荷および環境保全の取り組みについて報告します。
- **報告対象期間** 2011年4月1日から2012年3月31日の期間について報告します。
- **発行時期** 2012年10月
- **参考資料** 環境省環境報告ガイドライン(2007年版)  
環境省エコアクション21ガイドライン(2009年版)
- **作成部署及び連絡先**

テーブルマーク 経営企画部 環境チーム  
電話番号 (03)3546-6803 FAX番号 (03)3546-1203  
<http://www.tablemark.co.jp/>

## ■ 会社の概況 (2012年3月31日現在)

- **商号** テーブルマーク株式会社  
(英訳名 TableMark Co.,Ltd.)
  - **設立** 1956年9月1日
  - **資本金** 475億円
  - **従業員数** 1,545名
  - **本社所在地** 東京都中央区築地六丁目4番10号
  - **電話番号** 03-3546-6800(代表)
  - **事業内容** 冷凍食品、冷凍水産品、その他食料品の製造、販売
- 

## ■ 目次

環境報告書の基本的要件	1	水資源の利用	7
会社の概況	1	水環境の保全	7
トップメッセージ	2	大気環境の保全	7
環境理念	3	廃棄物	7
環境方針	3	化学物質の管理	8
環境負荷の削減目標と実績	3	製品の環境配慮	8
環境マネジメント	4	オフィスの取り組み	9
環境負荷の概況	5	地域社会への配慮	9
エネルギー	6	コンプライアンスの取り組み	9
原材料	6		

## ☆ トップメッセージ



テーブルマーク株式会社 代表取締役社長 日野 三代春

### 『一番大切な人に食べてもらいたい』

一番大切な人に食べてもらうなら、心をこめて丁寧に作りたい。そんな想いをもって、私たちテーブルマークは事業に取り組んでいます。

テーブルマークは、2010年より、加工食品事業、調味料事業、ベーカリー事業を中核とする食品メーカーとして歩み出しました。この中でも、特に冷凍麺、冷凍・常温米飯、焼成冷凍パンといったステップル(主食)を中心に、高付加価値な商品の提供に努めています。

たゆまぬ技術革新により、当社はこれまで冷凍えびフライ、冷凍さぬきうどん、冷凍お好み焼、パックご飯、焼成冷凍パンなど、画期的な製法による新しい“おいしさ”を次々と提案し続けてまいりました。

また、安全に向けた取り組みにおいても、グループの全ての冷凍加工食品工場でISO22000を取得し、生産プロセスに重点を置いた品質管理を実施するなど、最高水準の安全管理に全力を挙げて取り組んでいます。

お客様、お取引先様、そして社会全体から信頼され、必要とされる企業になることを目指して、全従業員一人ひとりがコンプライアンスの実践に努め、事業を通じて社会に貢献するという原点を忘れずに、環境保全が事業存続の重要課題であることを強く認識して、環境問題に真摯に取り組むよう努めます。

地球温暖化防止と廃棄物の削減を重点項目として、生産ラインの省エネルギー化による温室効果ガス排出量の削減や、廃棄物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)を推進します。

また、商品の企画設計、製造、販売、物流の全工程において環境負荷の削減に努めます。

「一番大切な人に食べてもらいたい」という理念のもと、地球環境に配慮した安全・安心な商品を提供することを第一に掲げ、これからも良き企業市民として、社内外のステークホルダーから信頼され、社会からの要請に誠実に対応していく所存です。

「環境報告書2012」をより多くの皆様方にご一読賜り、当社の取り組みについてご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いに存じます。

## 環境理念

テーブルマーク株式会社は、全従業員が環境の保全に責任を持って取り組み、地球環境の向上に貢献し、信頼され、必要とされる企業となるため日々努力します。

## 環境方針

- エネルギーの有効利用を心がけ、省エネルギー化を図ります。
- 原材料の無駄をなくし、省資源化を図ります。
- 廃棄物の発生抑制、再生利用を推進します。
- 環境に関する法律、条例、基準などの規制を遵守します。
- 全従業員の環境意識の向上を図り、環境保全に取り組みます。

## 環境負荷の削減目標と実績

環境方針に基づく中期計画として、「テーブルマーク環境行動計画」を策定し、環境負荷低減の目標を定め、目標達成に向けた取り組みを推進しています。

環境行動計画は、2009年度を基準年度とした2013年度までの計画で、温室効果ガス、水、廃棄物の削減計画です。

2011年度の環境負荷低減の実績は、地球温暖化防止では生産重量あたりのCO<sub>2</sub>排出量を2009年度対比年平均1%削減目標に対し、1.8%削減しました。また、資源有効利用では、水使用量は2.3%削減ましたが、廃棄物排出量は3.9%の増加でした。

	中期目標（2013年度）	2011年度の実績
地球温暖化防止	生産重量あたりの CO <sub>2</sub> 排出量を 2009年度対比 年平均1%削減	2009年度対比 年平均1.8%削減
資源有効利用	生産重量あたりの 水使用量を 2009年度対比 年平均1%削減	2009年度対比 年平均2.3%削減
	生産重量あたりの 廃棄物排出量を 2009年度対比 年平均1%削減	2009年度対比 年平均3.9%増加

削減率：対前年比をそれぞれ乗じた値を2乗根し算出

# 環境マネジメント

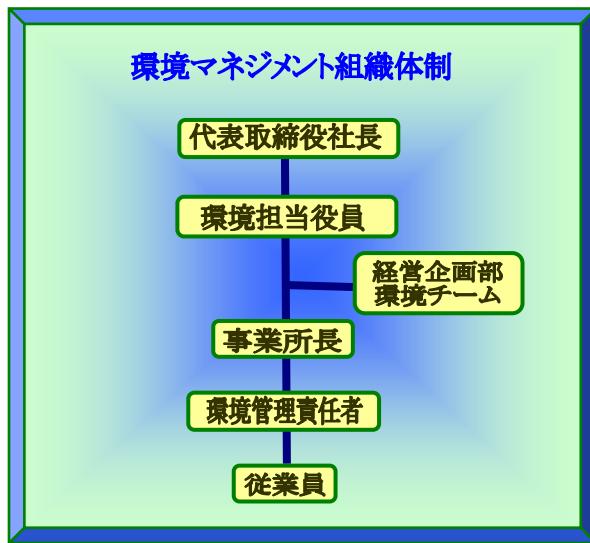
環境負荷の低減、環境に関するリスク管理、環境法令の遵守などの体系的かつ継続的な推進を図るため、組織体制を整備し、環境マネジメントのレベルアップに取り組んでいます。

## 環境マネジメントシステム

省エネルギー活動や廃棄物の削減、リサイクルの推進など、様々な環境保全活動を行う場合、どの様な工程からどの様な環境負荷が発生するのか正しく把握し、それぞれの項目について改善方法を検討し、取り組むことが必要です。

当社では各工場に「環境管理責任者」を選任し、環境目標の設定やその達成に向けた技術改善、従業員に対する環境教育に取り組んでいます。

環境に関し、本社の製造部が、各工場への指導・支援、情報の収集、環境負荷データの管理などを行い、グループ全体での環境への取り組みを経営企画部が行い、今まで以上にグループ全体での環境マネジメントのレベルアップに取り組んでいます。



## 環境教育

環境保全活動を推進していくためには全ての従業員が環境に配慮して行動することが必要不可欠です。全社的な環境意識の向上を目指し、各工場に配置した環境管理責任者がリーダーとなり環境教育を行っています。

また、定期的に環境会議や環境教育を実施し、環境管理責任者のレベルアップに努めています。

従業員の環境意識と管理技術を高め、環境に関するリスクを低減するため、公害防止管理者、危険物取扱者、冷凍機械責任者、エネルギー管理士、防火管理者などの公的資格の取得を奨励・支援しています。

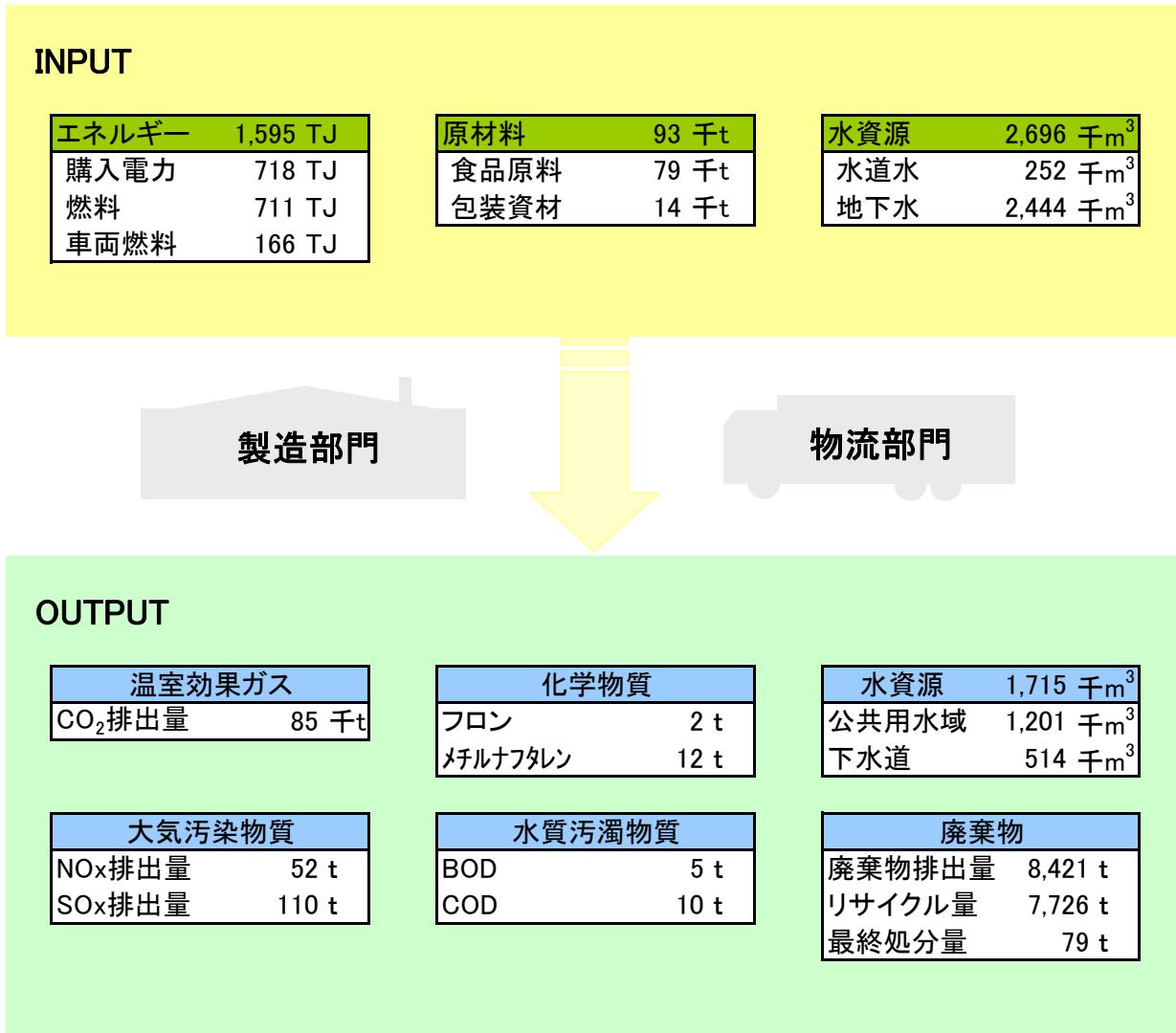
排水処理施設の管理、廃棄物の取り扱い、冷凍機やボイラーの運転など、専門知識を必要とする従業員は外部講習等へ積極的に参加し、スキルアップや法改正への迅速な対応に努めています。

# 環境負荷の概況

安全で安心な商品の提供とともに、地球環境の保全に配慮した活動を推進しています。当社の環境負荷の大部分を発生させる製造部門および物流部門では、資源の有効利用や環境負荷の低減に取り組んでいます。

エネルギーとして製造部門ではA重油、LPガス、電力など、また、物流部門では軽油、電力などを使用しており、エネルギーの効率的使用、省エネルギー化により温室効果ガス排出量の削減に努めています。

また、製造工程における歩留まり向上など、廃棄物の発生抑制(リデュース)に努めていますが、発生した廃棄物については、リサイクル率の向上によって、最終処分量(埋立処分)をゼロにするゼロエミッションに向け、動植物性残渣の飼・肥料化、有機性汚泥の肥料化、廃プラスチックの再資源化などに取り組んでいます。



集計期間:2011年4月～2012年3月

## 【環境負荷の算出法について】

### □エネルギー

「エネルギー使用合理化に関する法律」に基づく換算係数を適用

### □温室効果ガス

「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく換算係数を適用

### □NOx(窒素酸化物)

「環境活動評価プログラム」より算出

### □SOx(硫黄酸化物)

使用燃料の硫黄分、密度、脱硫装置の効率等からSOxに換算した排出量を算出

# ☀ エネルギー

製造部門で使用されるエネルギーは、使用量の多い順に電力、重油、ガス燃料です。

電力は製造機械や冷凍機、空調機器などで使用されます。重油は蒸気ボイラーやコーチェネレーションシステムの燃料、ガスは調理工程や給湯設備の燃料、軽油とガソリンは輸送車両および社用車の燃料、灯油は暖房設備の燃料にそれぞれ使用されています。これらのエネルギー使用量を削減するため、設備の改善やエネルギーの節約に取り組んでいます。

冷凍食品を製造する工程でエネルギー負荷の特に大きい設備は、電力を消費する冷凍機、A重油を燃料として消費する蒸気ボイラーや自家発電機などです。

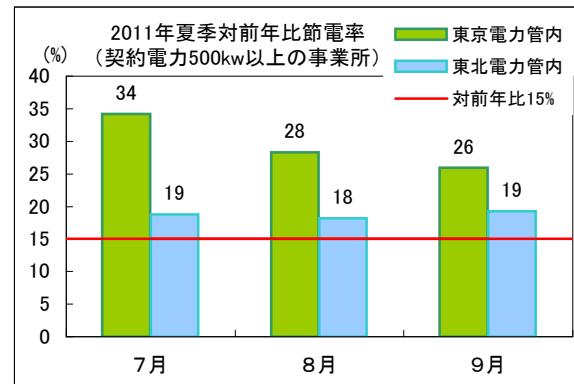
これらの設備を改善することが最も有効であるため、冷凍機の効率改善や廃熱回収によるボイラーの高効率化を行っています。

また、省エネルギー型モーターへの変換、モーターの効率改善およびインバータ化、照明機器の省エネ対応型機種への変更などを行っています。

## 節電への取り組み

2011年度は東日本大震災の影響による電力供給低下への対応に努めました。

7月から9月の電気使用制限期間における、使用最大電力の前年度比15%節電を達成するため、節電対策プロジェクトを立ち上げ、東京電力、東北電力管内の事業所が一丸となって取り組み、その結果、目標を上回るレベルの節電を達成しました。



## 熱効率の向上

排気ガスやボイラー排水、ドレン蒸気等の廃熱を利用しボイラー給水を加温する廃熱回収システムや蒸気の使用状況に応じ、最適な運転状況を選択する制御プログラムなどを備えた高効率ボイラーを導入し、燃料使用量の削減を行っています。

蒸気経路の見直しを行い、今まで保温対策が不完全であったバルブや継ぎ手等の保温により、熱エネルギー損失の防止に取り組んでいます。

## 今後の取り組み

冷凍機、受配電設備機器、照明機器の省エネルギー型への転換、原動機の効率改善、インバータ化の水平展開、その他エネルギー削減効果の高い技術導入に積極的に取り組み、エネルギーの使用量削減をさらに推進します。

# 原材料

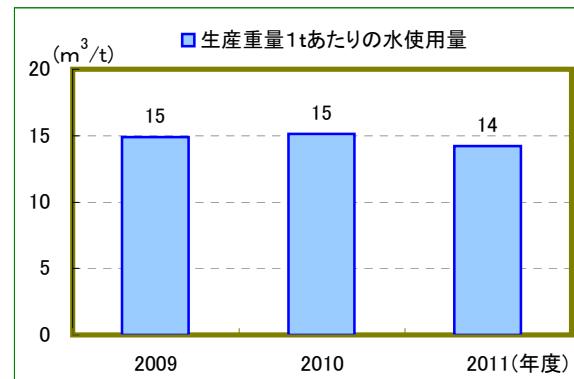
製造部門で使用される原材料には食品原料と包装資材があります。食品原料の主なものは、野菜、米、小麦、蕎麦などの農産物、牛肉、豚肉、鶏肉、乳製品などの畜産物、魚肉、えび、イカなどの水産物、各種調味料などがあります。包装資材は、主に段ボール、包装フィルム、プラスチックトレー、紙トレー、ペットボトル、クラフトテープ、プラスチックバンドなどがあります。

食品原料については適正な在庫管理とムダのない使用を徹底し、発生した食品残渣についてはリサイクル率の向上に努めています。包装資材については軽量化簡略化を行い、使用量の削減に努めました。

## 水資源の利用

水資源使用量は水道水、地下水合わせて2,696千m<sup>3</sup>でした。主な用途は原料の解凍水、原料の洗浄水、調理用水、機器の洗浄水、冷凍機の冷却水、清掃用水および製品の製造工程で原料として使用される水などです。

原料の解凍工程や洗浄工程の管理、機器洗浄水の節約、清掃担当者への指導を行い、水使用量の低減に努めました。



## 水環境の保全

排水は河川および海域(以下公共用水域)に1,201千m<sup>3</sup>、下水道に514千m<sup>3</sup>、合計1,715千m<sup>3</sup>排出しました。

排水処理施設によって法律で定められた基準値以下まで浄化処理し、公共用水域および下水道に放流しており、6工場が下水道への放流を行っています。公共用水域に排出した水質汚濁物質はBOD5t/年、COD10t/年でした。

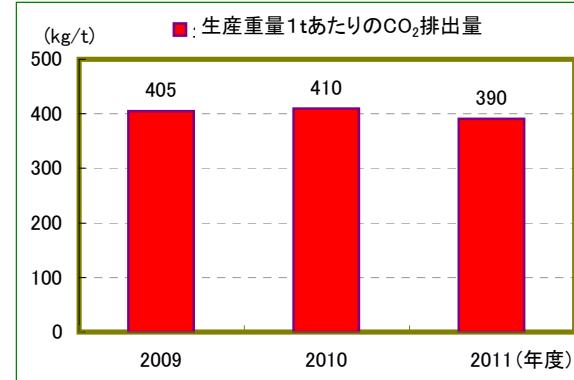
排水量削減のため、解凍水、冷却水、洗浄水の循環使用など節水対策を実施しています。

## 大気環境の保全

製造部門から排出される大気影響物質は、温室効果ガスであるCO<sub>2</sub>、大気汚染物質である窒素酸化物(以下NOx)、硫黄酸化物(以下SOx)などがあり、これらはボイラーおよび自家発電機から燃焼排気ガスとして排出されます。

エネルギー資源の節約と関連機器の適正管理により、大気環境の保全に取り組んでいます。

生産重量1tあたりのCO<sub>2</sub>排出量は、2009年度対比3.7%削減し、前年度対比4.8%削減しました。



## 廃棄物

製造部門から発生する廃棄物は排出量の多い順に動植物性残渣(食品残渣)、有機性汚泥、紙くず、廃プラスチック類です。動植物性残渣は主に食品製造工程から、有機性汚泥は排水処理施設から、紙くず、廃プラスチック類は容器包装類から発生します。

廃棄物排出量は2009年度対比7.9%増加、前年度対比0.8%削減しました。

目標達成に向け、原料搬入形態の見直しによる原料包装資材の削減、食品残渣・有機性汚泥の飼料化、肥料化の推進による有効利用、紙くず、金属くずの分別徹底による再利用等に取り組みます。



# ▲化学物質の管理

当社では人体や環境に有害な化学物質を大量に取り扱うことはありません。しかし、冷凍機の冷媒であるフロンガス、受電設備に使用していたPCB含有機器、排水処理用調整剤など複数の化学物質を保管および使用しています。また、燃料用にA重油を使用しています。

これらの物質取り扱いについては法律で定められた基準を遵守し、適正な管理を行っています。

## PRTR法関係

PRTR法(特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律)に基づく届出対象事業所は、メチルナフタレンがA重油に含まれるため、6工場となっています。また、化学物質については、自主的に使用量を把握し、適正に管理しています。

なお、使用量が少量で報告義務のない指定化学物質についてもそれらを含まない代替製品への転換を推進し、低減に努めています。

## フロンガス

冷凍機の冷媒として特定フロン(HCFC-R22)を使用しています。フロンは密閉サイクルの中で循環しているため大気への放出はほとんどありませんが、メンテナンス作業時などに少量の漏洩があります。

また、特定フロンはオゾン層の破壊や地球温暖化の原因物質であり、2020年の生産全廃が決まっています。

現在、オゾン層を破壊しない代替フロンが開発され普及していますがCO<sub>2</sub>の数百から数万倍の温室効果があるため、京都議定書の削減対象ガスに指定されています。

温室効果のないアンモニアを1次冷媒に使用する新型冷凍機の導入を進めています。また、新しい冷媒に関する情報収集と技術検討を継続しています。

## PCB含有製品の保管

現在、3台のPCB含有機器(高圧受電用コンデンサ)を保有しており、これらを専用保管庫に収納し、管理しています。

PCBは人体に蓄積されると様々な症状を起こす有害な化学物質ですが、化学的に分解処理することが難しい物質です。これらの対策として、政府によって設立された日本環境安全事業(株)によって平成16年12月より全国的な処分が開始されています。

当社保有のPCB機器は既に処分登録しており、無害化処分される予定です。

# ○製品の環境配慮

容器包装の削減は資源の節約、廃棄物の削減、輸送エネルギー効率の向上など様々な環境負荷低減につながることから、重要な課題として取り組んでいます。

冷凍食品の包装材の単一素材化、内部トレーの小型化・軽量化により、資源節約や輸送重量の低減に取り組みました。

## 輸送用、包装用資材の軽量化

当社は、商品設計の段階から環境に配慮した商品をお客様にお届けしたいと考えています。その取り組みの一つが、食品の容器包装材の見直しです。

容器包装材は家庭ごみの中で大きな比重を占めるにもかかわらず、多様な材質によってつくられているため、分別回収や分別処理が必要になり、再資源化を難しくしています。そのため、冷凍食品の包装材をポリプロピレンにアルミを蒸着した複合材から、白色ポリプロピレンの単一素材に順次切り替えています。

また、内部トレーについても形状と強度を検討し、小型化・軽量化を進め、更に、一部商品に於いて、麺を入れるトレー、具材をおくトレー及び具材を入れるフィルムを廃止しています。

## 田 オフィスの取り組み

夏季、冬季にはそれぞれクールビズ、ウォームビズを実施し、空調設備の消費エネルギー削減に努めました。また、一部蛍光灯の取り外し等を行い、照明エネルギーを節約しています。

紙ごみは分別を行い、再生紙原料へのリサイクルを実施しています。

オフィスで使用されるコピー用紙、社用封筒、紙ファイル、事務用品などについてグリーン購入を推進しています。

## 合 地域社会への配慮

### 環境美化活動

周辺住民の方々と協力して、工場周辺の農業用水路の清掃を実施しています。また、周辺道路や社員駐車場の清掃、除草を定期的に実施しています。

地域の環境美化活動を通じて周辺住民の方達とのコミュニケーションを深めています。

### 社会貢献活動

食品は、自然由来の原材料を使用しており、自然への感謝の想いと企業の社会的責任を果たす観点から、植林/森林保全活動「JTの森」に参加しています。

「JTの森」は、各地の森を一定期間借り上げて、それぞれの植生に合わせて植林を行うとともに、間伐、下草刈りなどの手入れ作業を支援することで、豊かな森を守り、育てていこうという試みです。

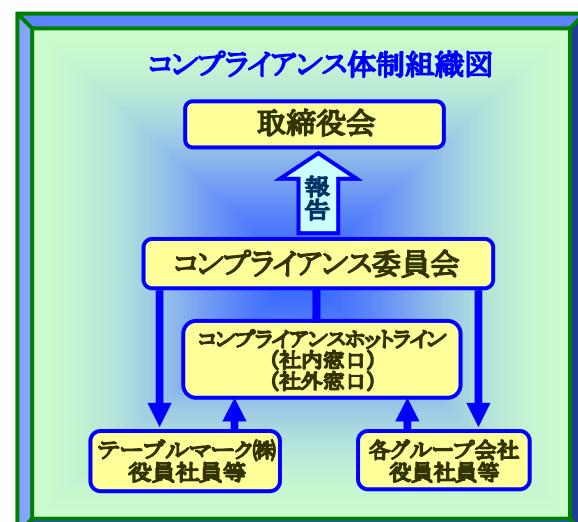
また、食品会社ならではの社会貢献として、NPO法人セカンドハーベストジャパンが取り組むフードバンク活動に協力しています。フードバンク活動とは、まだ十分食べられる品質にもかかわらず、様々な理由で廃棄される予定の食品を食品メーカーや外食チェーンなどからセカンドハーベストジャパンが預かり、福祉施設や団体などに無償で提供する取り組みです。

セカンドハーベストジャパンを通じて、児童養護施設などの福祉施設に当社の食品を提供しています。

## 目 コンプライアンスの取り組み

コンプライアンスの実践を経営の最重要課題の一つと位置づけ、コンプライアンスの徹底が当社経営の基盤をなすことを強く認識し、役員社員等に法令及び社内諸規程の遵守はもとより、社会規範に則した誠実、公正かつ透明性の高い行動をとることを求め、もってコンプライアンスに根ざした企業活動を遂行します。

コンプライアンスを実践する為に、行動規範、行動指針を定め、コンプライアンスの強化、徹底を図るため、コンプライアンス委員会およびコンプライアンスホットラインを設置しています。



**テーブルマーク**株式会社

〒104-0045 東京都中央区築地六丁目4番10号

Tel:03-3546-6800 Fax:03-3546-6801

<http://www.tablemark.co.jp/>

環境報告書2012について

## ご意見・ご感想をお聞かせください。

皆様からご意見ご感想をお聞かせいただき、今後の環境報告書作成に役立てたいと考えています。お手数ですが、質問事項にご回答のうえ、環境チーム宛にFAXしていただければ幸いです。

## 1. この報告書をお読みになって、どのようにお感じになりましたか？

- 充実している  普通  物足りない

## 2. この報告書の分かりやすさはいかがでしたか？

- 分かりやすい  普通  分かりにくい

## 3. テーブルマークの環境保全活動について、どのようにお感じになりましたか？

- 評価できる  普通  評価できない

## 4. 本報告書で関心を持たれたのはどの項目ですか？

- |                                   |  |   |
|-----------------------------------|--|---|
| <input type="checkbox"/> トップメッセージ | <input type="checkbox"/> 環境理念・環境方針     | <input type="checkbox"/> 環境負荷の削減目標と実績                         |
| <input type="checkbox"/> 環境マネジメント | <input type="checkbox"/> 環境負荷の概況       | <input type="checkbox"/> エネルギー <input type="checkbox"/> 原材料   |
| <input type="checkbox"/> 水資源の利用   | <input type="checkbox"/> 水環境の保全        | <input type="checkbox"/> 大気環境の保全 <input type="checkbox"/> 廃棄物 |
| <input type="checkbox"/> 化学物質の管理  | <input type="checkbox"/> 製品の環境配慮       | <input type="checkbox"/> オフィスの取り組み                            |
| <input type="checkbox"/> 地域社会への配慮 | <input type="checkbox"/> コンプライアンスの取り組み |   |
| <input type="checkbox"/> その他( )   |  |   |

## 5. 本報告書の内容について、改善したほうがよい点がありましたらお聞かせください。

## 6. その他、ご意見・ご感想などがございましたらお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。差し支えなければ下記もご記入ください。

お名前		ご連絡先	TEL
ご住所	〒		
ご職業		ご勤務先	